

県外派遣報告書 栃木県バスケットボール協会 審判部

|                   |  |      |                    |
|-------------------|--|------|--------------------|
| 大会名               | 平成29年度 第71回関東高等学校男子バスケットボール大会  | 開催地  | 東京体育館              |
| 報告者名              | 梶 崇司 大山賢史  | 派遣期間 | 平成29年6月2日(金)～4日(日) |
| 参加者<br>(所属都<br>県) | 本部: 渡邊 整(栃木) 稲葉 威(茨城) 関東指名: 小澤 勤(山梨) 平出 剛(栃木)<br>群馬: 菊地真吾 小澤朋克 阿久沢尚夫 埼玉: 北島寛臣 眞榮喜工 山岸大輔<br>茨城: 一色 渉 秋葉 智 中山克則 千葉: 山崎敬次郎 中島弘幸 安藤俊明<br>神奈川: 茂泉圭治 大澤尚樹 渡邊 純 山梨: 佐田幸一 手塚清孝 中嶋清貴<br>栃木: 渡邊 諭 梶 崇司 大山賢史 東京都審判員 |      |                    |

【審判会議内容】

「ガイドライン」について 講師: 小澤 勤 氏

2017-2018 JBAプレイコーリング・ガイドライン にしたがってレクチャー頂いた。

1 悪い手・腕・肘の整理

トップリーグの選手はファウルだと分かった上でハンドチェックをやっていることもあると思うが、高校生は別と考えるのも良いと思う。きちんと審判員が悪いプレイをファウルとして判定し、正しいプレイを教えることも1つ考えとして持つと良い。

2 スクリーンプレイ

オンボールスクリーンは比較的わかりやすいところがある。2POではオフボールのところを3POに増してよく協力して見る必要がある。難しい場面が出てくる可能性があるが、協力して判定する。

3 アンスポーツマンライクファウル

目の前でターンオーバーが起こり、ラストプレーヤーの状況でプレイに近い判定が難しくなるところもある。相手審判、3POであれば特に協力して正しい判定をすると良い。(図1)

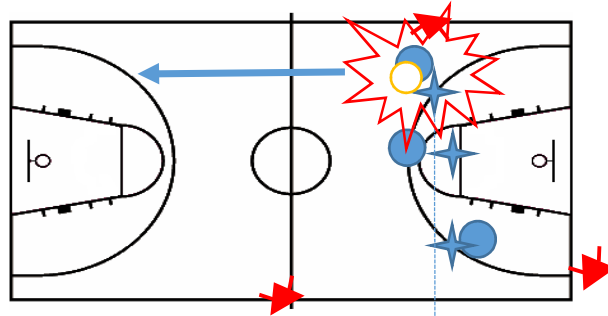


図1

4 フェイクに対する対応を確認しておく。

ディフェンスの最終ライン

高校生ではあまりないかと思うが、あった場合は正しい対応が出来るように準備しておく。

○平出 剛 氏 自身の豊富な経験から試合に臨むに当たってレクチャー頂いた。

- ・県内、関東、ライセンスによって笛に差があったといった事がないように大会に臨みましょう。
- ・明らかなファウルや、ヴァイオリションについては序盤からチームへのメッセージとしてきちんと伝えることが出来るように判定していきましょう。
- ・T・Oとよくコミュニケーションをとり、TOの判断を大切にしましょう。明らかに間違えたものについては正しく訂正するなど審判がきちんとフォローしましょう。
- ・表示物であるゲームクロック、ショットクロックをきちんと管理しましょう。
- ・2Pか3Pか、チームファウルの数、フリースローシューターとその本数などの簡単なミスをしないように丁寧にゲームを進めましょう。

県外派遣報告書 栃木県バスケットボール協会 審判部

|   |   |      |                    |
|---|---|------|--------------------|
| 大会名   | 平成29年度 第71回関東高等学校男子バスケットボール大会   | 開催地  | 東京体育館              |
| 報告者名  | 梶 崇司 大山賢史   | 派遣期間 | 平成29年6月2日(金)～4日(日) |
| 参加者<br>(所属都<br>県)   | 本部:渡邊 整(栃木) 稲葉 威(茨城) 関東指名:小澤 勤(山梨) 平出 剛(栃木)<br>群馬:菊地真吾 小澤朋克 阿久沢尚夫 埼玉:北島寛臣 眞榮喜工 山岸大輔<br>茨城:一色 渉 秋葉 智 中山克則 千葉:山崎敬次郎 中島弘幸 安藤俊明<br>神奈川:茂泉圭治 大澤尚樹 渡邊 純 山梨:佐田幸一 手塚清孝 中嶋清貴<br>栃木:渡邊 諭 梶 崇司 大山賢史 東京都審判員 |      |                    |
| <p><b>グループミーティング</b> 準決勝終了後に各コート毎にグループミーティングを行った。</p> <p><b>【目的】</b></p> <p>担当審判員の判定の根拠や考え方、プレイの見方など、参加審判員と共通理解を図り、それぞれが次の審判活動に活かせることを目指す。</p> <p>単に間違いの指摘や非難、否定をするという場ではなく、参加審判員が、自分の考えを発言することにより、積極性と責任感をさらに身につけることを目指す。</p> <p><b>【内容と進め方】(以下に限らない)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイドラインの各項目に沿って、参加審判員たちの考えや意見を発言してもらおう。<br/>(良かったケースや、共有してもらいたい項目、外してしまっていた項目を抽出しておこなう)</li> <li>2 発言されたケースについて、同様な意見を持つ人、違った見方をした人がいるかどうかを確認する。</li> <li>3 担当審判員に見解や根拠を述べてもらおう。</li> <li>4 審判主任の見解を述べてもらおう。</li> <li>5 ゲームを通してガイドラインに沿った判定や運営が行われていたのかを中心に感想等をまとめる。</li> </ol> <p><b>【注意事項】</b></p> <p>コートの外から見た印象と現場での判定や見え方の違い、見間違いであったかもしれないことへの確認、見解、判定の根拠など共通理解などが得られれば良い。(解決・すり合わせができないものときもある。)</p> <p>審判主任と担当審判員双方ともに、出されたケースについて印象が薄く記憶に残っていないケースもあり得ることは仕方ない。</p> |   |      |                    |

- 対戦カード : Aブロック準決勝 土浦日大(茨城)ー市立船橋(千葉)
- コート担当 : 漆間大吾(東京) 手塚清孝(山梨) 山岸大輔(埼玉) 大山賢史(栃木)
- 審判員 : R谷古宇孝(東京) U1平原勇次(東京) U2佐田幸一(山梨)

【Cグループで取り上げたトピック】

1 **第2ピリオド終了残り5秒、バックコートから白スローインの場面(映像を用いて確認)**  
担当審判員とミーティングメンバーの意見

- ・オンザコートで見ている限り特に何もなく第2ピリオドが終了したと思う。
- コート外での見解や映像を確認するとファウルとして取り上げてもよいものがあった。
- ・何かあった時に対応できるようポジションを工夫していた。
- ・クルーが集まることが出来ない状態でどのようにコミュニケーションをとるか。
- スローインを入れる審判がアイコンタクト、簡単なジェスチャー(腕時計を指すような動きで「ゲームクロックの確認」を相手審判へ伝える)でコミュニケーションを取ることが出来る。
- ・ゲームクロックとプレイヤーは誰が確認するか。
- ・オンザコートでの捉え方と、映像や外で見ている側の考えで差があった。
- ・映像で確認することで現象の明確さがわかった。 など

2 **第3ピリオド コーチからの大きなアピールがあった場面**  
担当審判員とミーティングメンバーの意見

- ・何が原因でアピールをしているのかが分からなかった。
- ・どのように対応すべきだったか。具体的に意見を聞きたい。
- まずはベンチエリアに下がってもらうことが優先。会話をするのはその後。
- 笛を鳴らして、下がってもらう⇔笛を鳴らすとさらにストレスになるので、笛を使わずに下がってもらう。
- ・アピールの原因は「スローインの際にバイオレーションがあったのではないか。」というもの。
- ・ベンチに下がってもらえないときは対応を変えていかなければならない。 など

感想

・オンザコートでの捉え方と主任としてコートの外からの捉え方に差があるところがあった。(外からは何が起きているか分かるが、オンザコートでは把握し切れていないなど)また現象が起きたことへの具体的な対応の手段をミーティングメンバーで共有出来たところは非常に良いものであり、我々の次の審判活動に生きてくるものであった。

・ミーティング時にクリップ映像を用意しておくことで、より建設的な意見交換が出来たと感じる。試合中に「ピリオドの終わり」、「スローイン」、「速攻」など場面を区切って可能な限り、映像に残してミーティングに臨むと良いと思う。

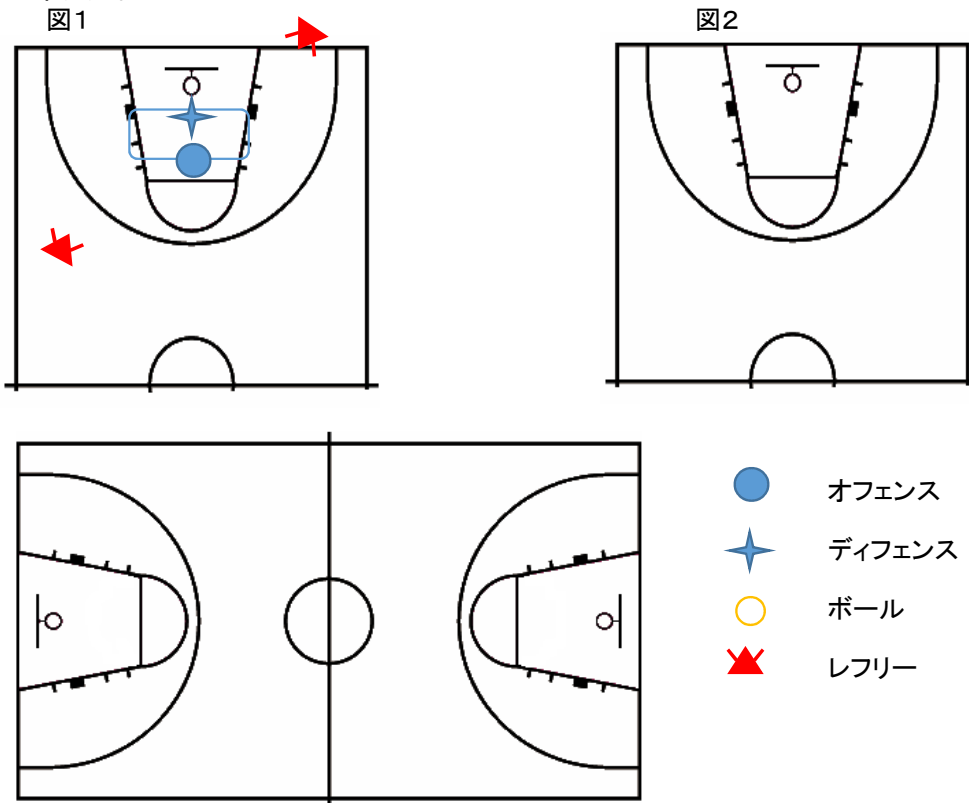
大山賢史

# 県外派遣 審判ミーティング記録表

割当日:平成29年 6月 3日(土)

|      |          |      |              |    |              |
|------|----------|------|--------------|----|--------------|
| 審判員名 | 大山 賢史    | 相手審判 | (副審) 安藤 俊明 氏 | 所属 | 千葉           |
| カード  | 正智深谷(埼玉) | 対    | 日本学園(東京)     | 男子 | Aブロック<br>1回戦 |

◇ ケース・ポジションについて



◇ ミーティングの内容

○ 責任エリアとその判定等について

- ・5番エリアについて2人の審判が確認出来るエリアではあるが、トレイルが積極的に判定にかかわるべきだった。
- ・全体としては非常に良い判定を積み重ねていた。

○ プレゼンテーションについて

- ・相手レフリー、T・Oに確認がとれるように左右の手を使い分けてジェスチャーを用いるとよい。(漆間氏 東京)

《審判主任》 笠島喜与都 氏(東京)

# 県外派遣 審判ミーティング記録表

割当日:平成29年 6月 3日(土)

|  |           |   |              |    |              |
|--|-----------|---|--------------|----|--------------|
| 審判員名   | 梶 崇司      | 相手審判  | (副審) 真部 真之 氏 | 所属 | 東京           |
| カード  | 桐光学園(神奈川) | 対   | 八千代松陰(千葉)    | 男子 | Bブロック<br>2回戦 |
| ◇ ケース・ポジションについて  |           |   |              |    |              |
| 図1   |           | 図2  |              |    |              |
|  |           |   |              |    |              |
|  |           | <ul style="list-style-type: none"> <li><span style="color: blue;">●</span> オフェンス</li> <li><span style="color: blue;">★</span> ディフェンス</li> <li><span style="color: yellow;">○</span> ボール</li> <li><span style="color: red;">▲</span> レフリー</li> </ul> |              |    |              |
| ◇ ミーティングの内容  |           |   |              |    |              |
| <p>○ゲームの序盤から悪い手の使い方、体の寄せ方についてきちんと笛を入れていた。</p> <p>○2Q、勝っているチーム(桐光)のファウルが続いた時間帯に、負けているチーム(八千代)のOFプレイヤーが悪い手を使ったプレイがあった。OFファウルをコールしておけば、両チームにより納得感が出たのではないかな。</p> <p>○コーチがベンチエリアから出てプレイヤーに指示している場面があった。ベンチエリアに下がってもらうなど、主審として何らかの対応が必要だった。</p> |           |   |              |    |              |
| 《審判主任》草野 伸明 氏(東京)  |           |   |              |    |              |

# 県外派遣 審判ミーティング記録表

割当日:平成29年 6月 4日(日)

|      |          |      |                          |    |              |
|------|----------|------|--------------------------|----|--------------|
| 審判員名 | 梶 崇司     | 相手審判 | (R) 稲葉 威氏<br>(U1) 茂泉 圭治氏 | 所属 | 本部<br>神奈川    |
| カード  | 実践学園(東京) | 対    | 正智深谷(埼玉)                 | 男子 | Aブロック<br>準決勝 |

◇ ケース・ポジションについて  
図1

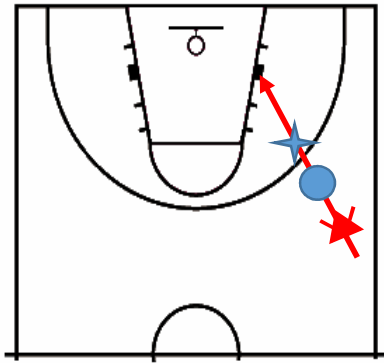
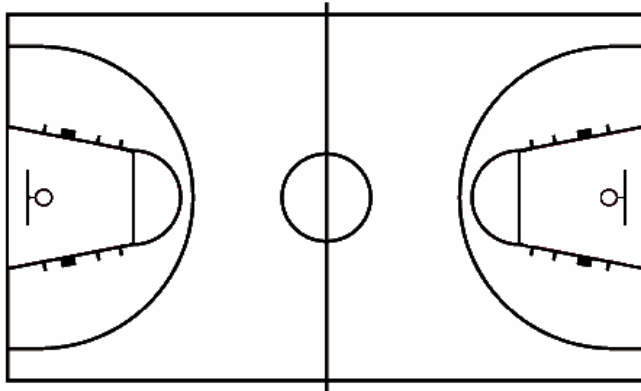
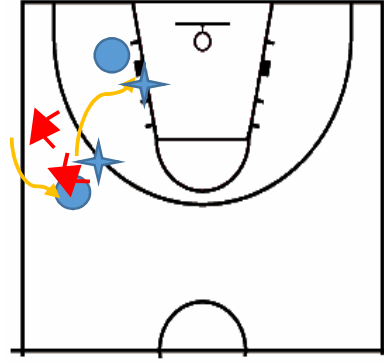


図2



- オフェンス
- ★ ディフェンス
- ボール
- ★ レフリー

◇ ミーティングの内容

○誰がプライマリで誰がコールすべきなのか

…ミーティングメンバーからの意見を踏まえ、いくつかのケースについてディスカッションを行った。

○24sec間際のケースについて

…ショット(リングに当たらず)⇒リバウンドが2回続いている間に24secがリセットされてしまった。

オポジットが判定すべきだが、LのRotationのタイミングによりWTレイルになったことも確認できなかった要因では。

○メカニクスについて

Tの際のポジション・アジャスト

…ストレートラインになり、2Por3Pを確認しづらい位置取りになっていることがある(図1)。

Cの位置取りとクロスステップ

…Cサイドにボールが来た時に下から見上げる⇒ドライブが始まったときにクロスステップが有効となる(図2)。

《審判主任》加藤誉樹氏(東京) 《グループミーティング》大澤尚樹氏(神奈川)、中山克則氏(茨城)、中嶋清貴氏(山梨)

## 【感想・県内審判員へ伝えたいこと】

今大会においては2ゲーム担当しましたが、判定に至るまでの材料を数多く集め、判定に活かしていくことが今後のレベルアップのために必要であり、自分の課題であると感じました。特に反省で出された場面について映像等で確認するとともに、プレイをより早くから見るようなポジションやアングルを追求していきたいと思います。

今大会より準決勝のゲームを対象にグループミーティングを実施することになり、私が担当するゲームが対象となりました。ミーティング担当者が客観的にゲームを見て、感じたことや疑問点を担当審判員と共有することにより、担当審判員の考えとコートの外から見た意見をすり合わせをすることができる非常に有効かつ効果的な取組みだと感じました。判定すべきレフリーがなぜ判定できなかったのかなど、判定に至るまでのプロセスや判定できなかった原因を深く掘り下げて考え、次に生かすことがレベルアップのためには重要と感じました。県内においてもこのような取組みをぜひ取り入れていきたいと思います。

最後になりますが、地元：東京都の皆様には3日間大変お世話になりました。ありがとうございました。

梶 崇司

今回は1泊審判員として1回戦を担当しました。日頃取り組んでいることを素直に出すことが出来たと思います。チームや選手からアピールがあった場面や反省を頂いたところについては、よく分析し今後の審判活動に活かしていきたいと思います。

また、今回からグループミーティングが取り入れられました。準決勝を担当した審判員と、オンザコートでの捉え方、その時に考えていたことなど、コートの中、外から見ていたことを多くの審判員と情報交換しました。コート外で複数の目で見ている分、情報量はとても多く、オンザコートでは分からなかった事を確認することができました。また、それらを担当審判員に提供することで、今後さらに注意を払うべき所、様々な場面における対応手段を学ぶことができました。非常に良い取り組みであり、今後は映像などを用いたり、よりよりミーティングが行えるように発展させていきたいと感じました。県内でも講習会の際に実施できればと思います。

渡邊整関東審判長、渡邊諭県審判長をはじめ県内審判員に対し、派遣して頂いたことを心より感謝致します。また東京都審判員、全ての大会役員の皆様にご配慮頂きまして、心より感謝申し上げます。

大山 賢史